

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また、医療の進歩に寄与するべく絶えず検査領域の拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [4788]IgGサブクラスIgG4

受託開始日

- 平成22年6月1日(火)

IgGサブクラスIgG4

免疫グロブリンの一つであるIgGは化学的性状や生物学的機能が異なる4つのサブクラスにより構成されています。そのサブクラスの一つであるIgG4は血清中総IgG濃度の3～4%程度を占めています。

自己免疫性膵炎では通常高 γ グロブリン血症や高IgG血症が認められますが、2001年にHamanoらにより硬化性膵炎において、多くの症例で高IgG4血症が認められることが報告され、疾患との関連性が注目されています。特にわが国では自己免疫性膵炎の多くがIgG4関連硬化性膵炎の病像を呈しているとされており、その判定基準が厚生労働省研究班/日本膵臓学会による「自己免疫性膵炎臨床診断基準2006」にも収載されています。

また、組織中にIgG4産生形質細胞の浸潤などによるIgG4関連硬化性胆管炎や間質性肺炎、動脈周囲炎などの全身性疾患においても、血清中IgG4濃度との関連が注目されており、平成22年4月の診療報酬改定で新規に保険収載されました。

血清中IgG4濃度測定は自己免疫性膵炎の診断及び膵癌との鑑別に有用とされ、今後研究が進むことにより血清中IgG4濃度測定の更なる臨床的有用性が期待されています。

■鑑別に有用とされる主な疾患

自己免疫性膵炎(IgG4関連硬化性膵炎)、Sjögren syndrome、Mikulicz病、Castleman病、IgG4関連硬化性胆管炎、間質性肺炎、動脈周囲炎など

自己免疫性膵炎臨床診断基準2006（厚生労働省研究班/日本膵臓学会）

1. 膵画像検査にて特徴的な主膵管狭細像と膵腫大を認める。
2. 血液検査で高 γ グロブリン血症、高IgG血症、高IgG4血症、自己抗体のいずれかを認める。
3. 病理組織学的所見として膵にリンパ球、形質細胞を主とする著明な細胞浸潤と繊維化を認める。
上記の1を含め2項目以上満たす症例を自己免疫性膵炎と診断する。ただし膵癌、胆管癌などの悪性腫瘍を除外することが必要である。

IgG4関連ミクリッツ病診断基準（日本シェーグレン症候群研究会IgG4関連疾患検討委員会）

1. 涙腺、耳下腺、顎下腺の持続性(3か月以上)、対称性に2ペア以上の腫脹を認める。
2. 血清学的に高IgG4血症(135mg/dL以上)を認める。
3. 涙腺、唾液腺組織に著明なIgG4陽性形質細胞浸潤(強拡大5視野でIgG4陽性/IgG陽性細胞が50%以上)を認める。
項目1と、項目2または項目3を満たすものをIgG4関連ミクリッツ病と診断する。
また、サルコイドーシス、キャッスルマン病、ウエゲナー肉芽腫症、リンパ腫、癌を鑑別する。

検査要項

項目コード	4788
検査項目名	IgGサブクラスIgG4
検体量	血清 0.4mL
保存方法	冷蔵(4℃)
検査方法	ネフェロメトリー法
基準値	4.8～105mg/dL
所要日数	2～4日
検査実施料	400点([D014]自己抗体検査の「21」IgG4)
判断料	144点(免疫学的検査判断料)
定価	4,000円

参考文献

自己免疫性膵炎診療ガイドライン2009 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班・日本膵臓学会